

カノープス

カノープスとは!
星の名前で、別名を布良星(めらぼし)といい、りゅうこつ座の一等星です。本土ではほとんど見ることのできない星ですが、沖縄では、冬、南の水平線の上に七色に光を放ちながらキラキラと輝いています。中国では、この星を見ると長生きできるとされ、長生星、南極寿星(ことぶき星)などと言われているそうです。

発行日 平成17年3月15日(火)
発行所 社会福祉法人 栄寿の会
介護老人保健施設 栄寿園
住所 平良市字下里2662番地
TEL (0980) 73-6481
FAX (0980) 73-6483
編集 栄寿園カノープス編集部

現在開会中の国会において審議されている介護保険制度の見直し案によれば「保険財政の赤字の解消」が前面に出ている。その是正のための改正の如く写りがちだが、制度の維持・発展の方向性・方法論など新たに示されている点、大きな転換と云えましよう。

改革の主要な内容は、
① 予防(リハビリ)重視型システムへの転換、② 給付(施設利用者の負担増)の効率化・重点化、③ 新たなサービス(地域密着型サービス)体系の確立。・・・などとなっている。

因みに、施設関係の見直しは、概ね次のとおりとなっております。

(1) 施設と在宅の負担格差の是正
食費(調理コスト分)と居住費(部屋代・電気水道代などの分)とを合

わけて概ね三万円余の利用者負担増(平成十七年十月一日適用)

(2) ケアマネ資格の更新制
適正なケアマネジメン
トの確立、ケアマネの独立性・中立性の保持並びに資質の向上を図るべく研修等の措置を講じ資格を五年単位で更新(平成十八年四月一日適用)

(3) 介護福祉士資格所持者の配置
利用者の尊厳重視・介護者の学び重視並びに資質の向上を図るため介護福祉士資格所持者の配置(移行措置)

(4) 地域密着型サービス
住み慣れた生活圏域の中で、市町村の監督のもと、その特性に応じて「通いであったり」、「訪問であったり」、「時には泊まりであったり」と多様な小規模・多機能のサービス施設を設定。地域密着型サービスを提供す

る基盤の整備(平成十八年四月一日適用)

(5) 特養の個室化・七割に(いずれ老健施設にも波及)

(6) 要介護度四・五・七割に(施設利用者の重度化・移行措置)

以上のように制度の方向性が明らかになったことに加え、これからの転換環境は、見直しの度に厳しい現状が予想されます。これまで同制度の中核を担ってきた当法人・施設にとって、今までもおりの一法人・一施設でこれからの乗り切れるのか。利用料の負担増に伴う利用者への影響はどうか。また、小規模・多機能型サービス居宅事業など新たな戦略をどう図っていくのか。・・・など課題山積。制度ビジネスの法人・施設の社会的責任の重さをひしひしと感ずる今日この頃です。

今季のカノープスは、介護を軸とし特集しました。ご覧頂きご意見など賜ることができれば幸いです。

新入職員紹介

通所リハ 照喜名弘信
介護員 友利 恵美

みなさん!
どうぞよろしく
お願い致します。



利用者と三味線も弾きました。



職員も踊りました。

通所新年会

平成十七年二月十日

選択メニューってなあに?

管理栄養士 友利 康子



厨房スタッフもがんばっています!!

はじめは利用者も職員もとまどいながらのスタートでした。

利用者のADLを考慮して「できることから始めよう。・・・」そんな思いのなか、毎月二回昼食時に実施しています。

利用者の方々とコミュニケーションを図ることも目的のひとつです。

利用者に安心感を与え、リラックスした雰囲気の中、

なかで食事を楽しんでいただくと同時に、調理スタッフも利用者の摂取状況を観察することができ、調理作業をするうえでとても参考になったと喜んでいます。

また、摂取量アップ及び食べこぼし対策として、利用者一人ひとりに合った食事形態と自器具等の工夫も、全職員一丸とな



どれにしようかなあ??

って取り組んでいるところです。

この取り組みをとおして、栄寿園を利用していらっしゃる皆様方の、うれしい笑顔と元気な姿にまた会えることを楽しみに厨房スタッフ一同頑張っています。

〈追伸〉昔から富古の人々の食卓に欠かせなかった野草。食べ物がなく貧しかった時代に人々の空腹を満たし、豊富な栄養で健康な身体をつくってきた数々の郷土料理。利用者の皆様とのふれ合いのなかでたくさん情報をお伝えでき感謝しています。



厨房主任もご挨拶に上がりました。



平成16年7月28日(水)のバイキング風景



調理員もみなさんとコミュニケーション!!

「身体拘束ゼロの時代へ」

身体拘束廃止への取り組み

介護課長 前川 成朋

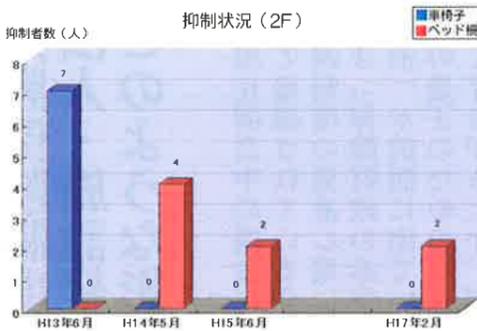
老後生活の最大の不安である介護を社会全体で支え、高齢者の自立を支援することを目的とした介護保険制度が、平成十二年四月にスタートした。それに伴い高齢者が利用する介護保険施設等では身体拘束が禁止され、栄寿園でも「身体拘束廃止」の取り組みがスタートしました。

平成十三年二月、理学療法士・介護職員・看護職員の三名が「身体拘束廃止」の研修会に出席。平成十三年五月「栄寿園身体拘束廃止委員会」を発足する。

目的として「利用者本位」のケアを確立し「身体拘束ゼロ」の達成を図る。委員会のスタッフは各部署から十三名で構成する。身体拘束廃止の取り組みの流れ

当時の身体拘束に関する状況
平成十三年六月、二階は車椅子での拘束七名、ベット柵全周〇名。三階は車椅子での拘束二十六名、ベット柵全周八名。

栄寿園での身体拘束とみなす状況として全周ベット柵による拘束・車椅子での柵による拘束、この二つを大きく取り上げて対策を検討することにした。

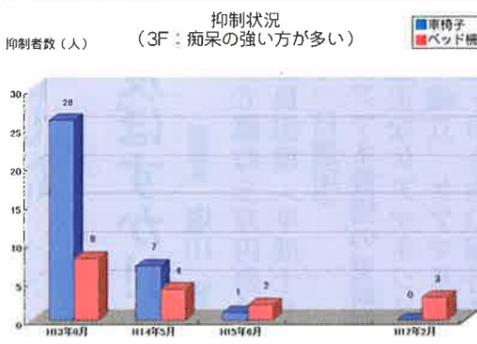


先ず、車椅子での柵による抑制について対策を検討し、それが終了してからベット柵の撤廃について検討し、拘束廃止が容易と思われる入所者から検討を始めることにしました。

会議を重ね、いろいろな工夫により平成十三年八月十五日時点で拘束者数が大幅に減少しました。それと同時に身体拘束のマニュアル書の作成(平成十五年二月一日に第一版)が出来上がりました。その他身体拘束記録表の作成も行いました。

具体的な対策

★初期において拘束解除により見守り強化の利用者に対して、



車椅子による抑制に関しては、平成十三年五月より平成十四年三月でほぼ終了しています。

★車椅子誘導介助は必ず一人ずつ介助して、車椅子から転落の危険がある入所者は、テーブルにつけるよう徹底する。

★三階の見守りに関しては、職員を採用も行われる。(痴呆の方が多い為)

★既存のベットでは低床に関して限界がある為いくつか低床ベットを制作する。

(平成十四年三月からベット柵の抑制について検討を進めている。)

◆終わりに

平成十三年五月から身体拘束廃止委員会を立ち上げ四年目を迎えています。

体力づくりもしています

介護員 荷川 敏明

平成十七年二月二十日第六回 ロマン海道・伊良部島マラソン大会に私達は、Aコース(十・五km)に三名(女性)、Bコース(五・二km)に二名(男性)で、栄寿園のネームの入った赤いユニフォームを新調し、楽しく走り、親睦を深めて各個人の健康増進を図る目的で出場しました。当日は小雨がぱらつき強い風が吹き寒い一日となり私達は無理せず楽しく走ることを合言葉にそれぞれのコースをスタートしました。

~~~~~

迎えようとしている。

最初の頃は、出来るわけがないと思っていましたが、簡単な事例を一例ずつ進めていくことにより、それが自信となって、抑制がだんだんと少なくなっていきました。

車椅子での抑制は完全に廃止できましたが、ベット柵においては何名か抑制状態にある入所者もいらつしやいます。入所者の皆様に安心と安全を提供するために今後も抑制廃止が出来るように今後も努めていきたいと思っています。

Bコース通り池前駐車場をスタートして間もなくすると下地島空港周辺付近では小雨と強い風に飛ばされようになりながら走り、途中で観光バスの中からガンパターの声援に励ませながら立ち止ることなくゴールをめざして走り続け、中間地点では、黒砂糖と水分を補給して無事にフィニッシュすることが出来ました。ゴール地点では、たくさんの人達が寒い中完走おめでとうと拍手で迎えてくれました。有難うございました。

その後会場では、宮古、那覇往復航空券が当たる抽選会があり、私達のメンバーは、残念ながら航空券はハズレたけど、パン二個、カツオブシ一個、ミソ一袋、目覚まし時計が当たることができ非常にうれしかったです。

「人生はいつも挑戦、何もしないではあきらめては負け」(又吉とも子さん「カノープス二〇〇四年秋号より」)の言葉を念頭におき、これからもいろんな大会に挑戦して、行きたいと思っても出場したいと思っています。

皆さんもウォーキング程度で良いと思いますので、出場しませんか。

健康にも良いし、腰痛も治るかも!

# 排泄自立に向けての取り組み

介護主任 平良 和子

加齢や様々な障害により機能低下がみられ、栄寿園利用者のほとんどの方が排泄に何らかの問題を持っていきます。

〈平成十七年二月現在〉  
三階利用者四十六名中  
自立(六名)  
十三・〇%トイレ誘導(綿パンツ七名) 十五・二%(リハパンツ十一名) 二十三・九%紙オムツ(二十二名) 四十七・八%で五割弱で紙オムツを使用している状況です。

そこで私達は安易にオムツを使用するのではなく利用者個人の排泄問題にスタッフ全員で取り組み、排泄問題に対するスタッフの意識向上を図ることで排泄自立ができて利用者に快適な生活を提供できると思います。

まずおむつ外し行為や放尿がある利用者をケース検討し入所までの経過や入所時の状況などを把握し排泄

のリズムをつかむため時間を追って検討する為のミーティングを行った。

◆尿・便秘時に特定の動きがないか観察しながら誘導を試みる

◆排泄表に正確に記録することで排泄パターンを掌握する。

◆ケアプランの活用で問題点を検討

◆水分摂取量の確認

利用者の排泄自立を目的に意思表示の出来る利用者には、個々に合った排泄誘導を行い、トイレ排泄が可能で訴えが出来ない方は、個人排泄チェック表(時間、排尿、排便の有無の確認を詳細に記録)を利用しスタッフが連携し排泄サインを見極めトイレ誘導を促す事でオムツからリハパンツ、綿パンツへの変更が可能となりオムツへの依存や不快感による夜間不眠が解消され、安眠も確保出来た。

今後も洞察力を身に付け利用者個別の対応で「ゆとり」をもって排泄援助を行い信頼関係を築く事で利用者一人一人に対応できるよう努めたい。

# 小さな喜びを生きる力に!!

介護員 砂川 愛子

平成十六年度に行った、二階においての集団作業の状況をまとめてみたいと思います。

二階では、二ヶ月に一回の割合でお楽しみ会と題して集団作業を行っています。

行事における計画の目的は集団の発展を援助し、心身ともに元気をとり戻すことにあります。

方法として、職員が担当者を決め、おやつ時間を利用して一時間程度行う。利用者にて出来る事はやってもらう。特に、厨房職員にはお世話になりました。

まず、

●三月「天ぶら作り」



「天ぶら作り」

二階南側のペランダでテーブルを置き、食材の皮を剥いたり、切ったりの作業を入所者にしていただきました。天ぶらを揚げることは出来ないが、味付けなど利用者にしていたいただきました。

にがりのかわりに海水を利用して、おいしい豆腐が出来上がり、昔話に花が咲いていました。

●四月「豆腐作り」

ふやかした大豆をミキサーにかけて袋に入れて絞る、おからと原料に分ける作業を利用者にしていたいただきました。

にがりのかわりに海水を利用して、おいしい豆腐が出来上がり、昔話に花が咲いていました。

●八月「流しソーメン」

職員の提案により、流しソーメンをしよう!との事で行いました。買って来た雨どいをホールに固定して利用者は、といを囲んで座ります。片手に割り箸、片手に麵つゆ! 普段の緩慢な動きからは想像もつかないすばらしい反射神経を発揮していました。

●十月「月見会」

卓上コンロでお湯を沸騰

さして白玉粉を丸めて串に刺して食べます。普段、手の動きが悪い利用者の方も上手に団子を丸めていました。

作業する能力は低くても、食する喜びで生き甲斐を感じ、普段は手が上がらない方も上げたり延ばしたり、これこそが心のリハビリではないでしょうか。

食べる能力があるということ、生きる力につながると思います。

お楽しみ会をするようになって、利用者から「次回は何をやりたい」とか、「こゆうのはどうか」など話してくるようになり、自己の意思が出てきたと感じられます。

楽しい生活の場にするためにも利用者や職員とのコミュニケーションを大事にしていきたいと思っています。



「豆腐作り」